活動を後世へつなげていくことが大事

平成28年9月2日

今年は、暑い夏でした。気候としても40℃近くまで気温が上がり、うだるような暑さが続きました。また、この夏は夏季五輪、リオ・デジャネイロ大会が開催され、日本人のメダルラッシュで多くの歓喜に包まれました。特に、個人的には、陸上男子100m×4のリレーで、日本初となる銀メダルを獲得し、それもアジアレコードのタイムで走破したところが印象的です。一般的に金メダルを獲得したジャマイカは別として、アメリカや他の陸上大国とともに戦って獲得した銀メダルは価値の大きいものになったのではないでしょうか。

次には、パラリンピックが開催されます（発出したころにはある程度結果がでていると思いますが）。こちらにも注目が必要です。

なんと、私の住む熊本県の荒尾市・長洲町の地域から、「ウィルチェアー（車いす）ラグビー」に日本代表が選出されました。「ウェルチェアラグビー」とは、四肢に障害がある車いすの選手が出場するもので、バスケットボールのコートを使い、丸いボールをパスやドリブルでつなぎ、ボールを保持したままゴールラインを超えると得点となります。ラグビーとは異なり、前方へのパスが認められ、相手チームの攻撃を妨害する際には車いすによるタックルもでき、車いすの激しいぶつかり合いが特徴的なスポーツです。地元では壮行会が開催され、横断幕が掲げられるなど注目しています。地元の一人ひとりの活躍が、地域の活性化につながり、皆に興奮や感動を与えることができる、このような活躍には目が離せません。

このような活躍を目の当たりにし、思うことは、一人ひとりできることは限られていますが、できることを確実に行うことで生まれる結果を求め、日々の生活を大事にし、熊本地震で得た教訓である「日々の生活のありがたさ」を大切にしながら、毎日を健康に生きたいものです。

そして、その活動を後世へと脈々とつなげ、これらの活動が間違いなかったことを、証明していくことが大事だと思います。